

特別捜査局、横田で新たな中隊を発足 *OSI activates new squadron in Yokota*

August 14, 2023

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で7月25日、第9地区捜査中隊(9FIS)の指揮権移譲式が行われ、新たな中隊が発足した。

9FISは、在日特別捜査局(OSI)分遣隊の中央司令部となる。日本におけるOSIの優先事項は、任務の要請に応じ、さまざまな課題に対処する組織的な枠組みを確立することである。同中隊の発足により、OSIの日本国内での取り組みの同期化、日本のパートナーへの戦術的／運用支援の強化、そして在日米軍および第5空軍の米国高官との連携の効率化を図る。

同中隊は、ハワイ州パールハーバー・ヒッカム統合基地の第6地域司令部(6FIR)の傘下に入る。6FIRは、航空団レベルの組織で、アラスカ、ハワイ、グアム、日本、韓国を含む東南アジアと太平洋地域管内の35か国で犯罪・詐欺防止に努め、防諜、対脅威の捜査・活動を行う。

指揮権を付与されたアダム・カーゼン中佐は、9FISの初代司令官を務める。

カーゼン中佐は、「横田のOSIファミリー、そしてオンラインで参加してくれている三沢と嘉手納基地の諸君、新たに中隊司令に就任できたことを私は大変光栄に思う。太平洋地域における現在の安全保障環境は、ここ数十年でかつてないほど厳しいものとなっている。OSIは、その歴史の中で度重ねてきたように、進化する脅威に効果的に対処していくことが大事だ」と語った。

式典の執行官は、6FIR司令官ベンジャミン・ハッチ大佐が務めた。そして式典には、航空自衛隊からも多数の来賓が出席した。

ハッチ大佐は、「第9地区捜査中隊が承認され、活動を開始したことは、現在そして将来に渡って任務に要求される適切な敏捷性、態勢、防御、指揮・統制力を戦力として加えたことを意味する。同中隊の日本における任務の意義は、米国とパートナー、同盟国を脅威から守ることにある」と述べた。

